

◇H29年度受講者：25人

- 〈内訳〉
- ・市町村職員：16人
  - ・住民団体等：9人

◇研修講師：山梨大学生命環境学部  
地域社会システム学科  
大山 勲 教授

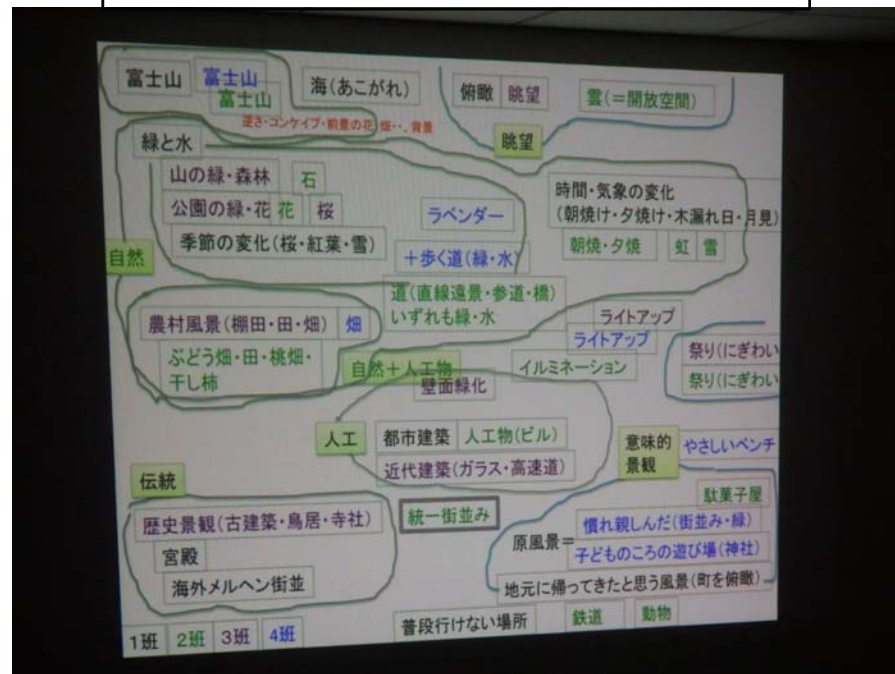
No	研修内容	日時	
第1回	「課題：自分の好きな風景」 についてワークショップ	H29.6.14	(水) 13:00~16:00
第2回	景観の基礎 及び 景観まちづくりの基礎	H29.6.29	(木) 10:00~16:00
第3回	現地講習（県内） ワークショップ	H29.7.19	(水) 10:00~15:30
第4回	現地講習（県外）	H29.8.18	(金) 10:30~15:00
第5回	現地講習（県外）	H29.9.29	(金) 10:00~15:00
第6回	現地講習（県内）	H29.10.13	(金) 10:00~15:30
第7回 第8回	第9回課題発表に向けた活動	H29.11.13	(月) 13:00~16:00
		H29.12. 1	(月) 13:00~16:00
第9回	「課題：富士河口湖町河口地区を盛り上げるためのアイデア提案」の発表	H29.12. 8	(金) 13:00~16:00

# 3 研修（第1回）の内容

1. 「課題：自分の好きな風景」について  
班に分かれてワークショップ  
⇒ 写真を使い、風景のジャンル分けを行う  
ことで、『良い景観』の定義を探る。
2. 発表
3. 課題講評



各班の好きな風景の分類まとめ





# 4 研修（第2回）の内容

## 『景観の基礎について』

- 1.はじめに
  - 1) なぜ今、景観か？
  - 2) 景観形成の目的と期待
  - 3) 景観行政の現状
  - 4) 地域景観リーダーへの期待
- 2.景観を捉える基礎知識
  - 1) 景観とは何か？
  - 2) 人が好む景観とは何か？



先進地に学ぶこと

初動：まちづくり活動をどのようにスタートさせるか  
 持続：まちづくり活動をどのように継続させるか

まちづくり活動の特性

成果が見えにくい(長期的)＝成果よりプロセス重視  
 発見→企画→小さな実行→評価 のくりかえし  
 継続が力(長続き重視・無理しない)  
 まちづくりは絶対に失敗しない  
 「目標設定→確実な成果(単年度)」に馴染まない



## 『景観まちづくりの基礎』

1. まちづくりとは
2. 景観まちづくりの事例
3. まちづくりはソフトだけではない  
ソフトとハードがつくる「設え」
4. 制度化を目指す：景観地区、地区計画
5. リニアをチャンスに
6. 観光・防災まちづくりについて
7. 日本の風土と景観と防災

1.はじめに  
2) 景観形成の目的と期待

景観形成の目的 住民の生活を豊かにすること

景観形成への期待

■景観計画はネガティブチェック(マイナスゼロにする)  
**景観法による規制 = 「著しく悪い景観の排除」**  
 「良い景観」は規制によっては生まれえない

■ゼロプラスへ  
 景観計画の先を進めていく必要＝「景観まちづくり」

抽象的な景観形成基準の「調和」の内容を考える。  
 例)「富士山の眺望を阻害しない」とはどのような状態か？  
 例)「周囲の住宅景観に調和する」とはどのような状態か？

良い事例を見せる。増やす。要める。  
 例)もてなしの屋外広告物

その気にさせる  
 例)指導の股得力。  
 作るプロセスに巻き込む(場づくり)

<まちづくり＝住民・行政協働> 住民だけでは「まちづくり」は進まない  
 まちづくりの推進においても行政の役割は大

特徴：住民によるガバナンス、最高レベルをめざす  
 透明・裁量、規範・合意、慣習法、性善説、プロセス重視

住民が主体 + 行政の助け

まちづくり

行政が主体 + 住民参加

都市計画(法定都市計画制度など)

特徴：法によるガバナンス、最低レベルの保証、公平・平等、規制、成文法、性悪説、アウトプット重視  
 都市計画法、景観法、建築基準法・・・

さらに

住民と行政が補完あって(役割分担をわきまえながら)同じ目標を異なる方向から協働で目指す)＝まちづくりは住民と行政の協働によって実現＝内発的地域づくり

補足)まちづくり(Machizukuri)は他国には無い概念。欧米では都市計画に内包(コメンタ)の危機感があったから、アジアでは日本の失敗を見てまちづくりに学びつつある。

参考文献)まちづく字(2007)に加筆

○町道移管に伴う道路整備の提案

■ワークショップ ■勉強会・まち歩き ■先進地事例視察

河口地区の景観まちづくりに資する道路となるように

○提案書「道づくり住民プラン」の提案



# 5 研修（第3回）の内容

## 現地研修『河口地区現地調査』

1. 班ごとに現地調査  
⇒ 河口地区の地域資源の発掘  
⇒ 河口浅間まちづくりの会の方と共にまちあるき
2. ワークショップ  
⇒ 発掘した資源の取りまとめ
3. 河口浅間まちづくりの会の前で発表  
⇒ 河口浅間まちづくりの会から意見・感想

### 各班の調査写真（抜粋）



### 現地調査



### ワークショップ



### 発表



### 河口浅間まちづくりの会





# 6 研修（第4回）の内容

## 現地研修『小布施町の景観まちづくり』

### 花のまちづくり

- 1. 町並修景事業
- 2. 花のまちづくり
- 3. 協働のまちづくり  
⇒ 自立するまち

### 町並修景事業



オープンガーデン事業  
・丹精込めた家庭の庭を開放  
⇒ 景観と「オープンマインド」の向上、おもてなしの醸成



- 【事業の特色（抜粋）】
- ① 時間を十分にかけて関係者の納得を得ることを前提
  - ② 補助金を受けない（全て自己資金）
  - ③ 官民、民民の境界を見えるようにしない
  - ④ 田舎らしさを大切にする
  - ⑤ 生活の居住空間の快適性を上げる

### 協働のまちづくり

- ・ 4つの協働
  - ① 町民との協働 ⇒ まちとしょテラス
  - ② 大学・研究機関との協働 ⇒ 東京理科大等
  - ③ 地場企業との協働
  - ④ 町外（優良で志の高い）企業との協働
- ・ 中心部のさらなる整備  
⇒ 車から人のための道
- ・ 農村部の活性化  
⇒ 北斎館周辺から農村部へ



### 次のステージへ

- ・ 若者の流れをつくる  
⇒ 若者会議の開催（全国から35歳以下の若者が集まる）  
サマースクール（高校生、ハーバード大等の海外大学生）  
地元の若者の活動（スラップライン、ボルダリング等）  
町外の若者の活動（クリエイティブハブ等）





# 7 研修（第5回）の内容

## 現地研修『町田市の景観まちづくり』

1. 日本におけるフットパスの独自性と普遍性  
(NPOみどりのゆび 神谷由紀子)
2. 町田市小野路フットパス
3. 農家の郷土料理

【フットパスがまちづくりに役立つ理論的枠組み】

- ①まちづくり資源の発見
- ②ファンづくり
- ③共同体の再生と地元産業の復活
- ④プラットフォームの形成
- ⑤経済効果（地元の第一次産業にも効果）



小野路宿里山交流館





# 8 研修（第6回）の内容

## 現地研修『勝沼フットパス』

1. 地域資源を活かした「文化の見えるまちづくり」の勧め  
(宮公園 施設長 三森哲也氏)
2. 勝沼町内フットパス
3. つぐら舎 (まち案内&カフェ)





# 9 研修（第7、8回）の内容

課題『富士河口湖町河口地区を盛り上げるためのアイデア提案』

- ①今ある地域資源を活かすアイデア（ソフト）
  - ②資源を改善して活性化するアイデア（ハード）
  - ③①、②を活かすための地域の取組みやシステムのアイデア
- 以上の提案を発表するための準備



# 10 研修（第9回）の内容

課題『富士河口湖町河口地区を盛り上げるためのアイデア提案』発表

各班 発表 20分

地域住民（河口浅間まちづくりの会）質疑 5分

講師講評 5分

研修で培った知識、経験を基に  
実際にまちづくり活動に取り組んでいる地域へアイデアを提案

